

放送ライブラリー公開ラジオ番組＜防災・震災関連＞

※8階視聴フロアで視聴できます

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R00848	日本海中部地震から一ヵ月 予告なき驚きの中で その時お年寄りたちと	秋田放送 29分 1983/6/30	報道・時事	日本海中部地震(1983年5月26日、震度5・マグニチュード7.7)を経験したお年寄りとその周囲の人たちの話を聞きながら、前触れもなく襲ってくる地震災害の中でのお年寄りたちの恐怖と不安を私たち自身のものとして考えていく。
R00584	温泉市長奮戦記 無防備都市から防災観光都市をめざして	静岡放送 30分 1990/5/13	ドキュメンタリー・ 録音構成	1989年7月、海底火山の噴火に見舞われた伊東市。火山と観光の共存という課題に市長、行政、市民がどう立ち向かったのかを描く。
R01447	東京・神奈川知事防災対談	オール・エフ・ラジオ日本 48分 1995/9/1	トーク・ ワイドショー	青島幸男東京都知事と岡崎洋神奈川県知事が、それぞれの防災対策に対する考え方と相互の支援体制について、1月の阪神淡路大震災をふまえて語り合う。
R01448	川崎の防災まちづくり 高橋市長、市民と語る	オール・エフ・ラジオ日本 22分 1996/8/30	トーク・ ワイドショー	阪神淡路大震災から一年半、川崎市の防災問題について高橋清市長が、町内会自主防災組織の代表を務める市民や主婦と語り合う。
R01449	防災フォーラム'96 市長と語る防災まちづくり	オール・エフ・ラジオ日本 28分 1996/8/30	トーク・ ワイドショー	大地震が起きたとき、行政はどのような対応をするのか、市民はどう行動していくべきかを高秀秀信横浜市長と横浜市民が公開の場で話し合う。
R01450	防災トップトーク 東京・神奈川知事対談 首都圏の防災対策を語る	オール・エフ・ラジオ日本 54分 1996/8/30	トーク・ ワイドショー	青島幸男東京都知事、岡崎洋神奈川県知事の両名が行政のトップの立場から防災対策、特に地震対策について東海地震の予知と首都圏防災をからめて語り合う。
R00950	Breakfast Club 1・17神戸…あれから2年	エフエム大阪 176分 1997/1/17	音楽	阪神淡路大震災から2年。神戸で生まれ育ったDJ・若宮てい子が、神戸の復興状況、防災、観光などの情報や、リスナーからのメッセージを紹介しつつ音楽で被災者にエールを送る。
R01451	防災トップトーク 地震防災対策最前線	オール・エフ・ラジオ日本 51分 1997/9/1	トーク・ ワイドショー	就任3年を迎えた東京・神奈川の両知事が防災対策の実績を語る。また、国土庁長官をゲストに迎え、国と自治体の防災上の連携について語り合う。
R01008	ごめんやす馬場章夫です	毎日放送 84分 1997/9/17	トーク・ ワイドショー	関西の朝の生ワイド。この日は徐々に変わりつつある阪神大震災の被災地の様子をレポートするコーナー「復興の槌音」を中心に送る。他に「電話訪問」「防災メモ」など。

放送ライブラリー公開ラジオ番組＜防災・震災関連＞

※8階視聴フロアで視聴できます

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R01383	震災3年 なぜ仮設住宅はなくなるのか	毎日放送 55分 1998/1/17	ドキュメンタリー・ 録音構成	阪神淡路大震災から3年がたったにもかかわらず、被災地ではいまなお2万4千世帯余りが仮設住宅での暮らしを続けている。そこに住む人たちのさまざまな問題点を報告する。
R01452	防災トップトーク 東京・神奈川知事対談 震度6からのサバイバル	アール・エフ・ラジオ日本 57分 1998/9/1	トーク・ ワイドショー	自治体の防災対策と市民生活の関わりを、東京・神奈川の両知事と、ミュージシャンのタケカワユキヒデが語り合う。防災食の試食も行う。
R01778	検証・JCO臨界事故 情報はいかに伝わったか	茨城放送 31分 1999/10/31	ドキュメンタリー・ 録音構成	国内の原子力事故としては過去最悪の被害となったJCO臨界事故について、住民の安全に直結する「情報伝達」に焦点を当てて検証する。(放送日時の関係で、被曝者数や死亡者の有無については国の報告書などとは違いあり。また番組放送後、茨城県は「地域防災計画原子力災害対策編」の改正にあたり「住民広報」を盛り込んだ。)
R01844	JRN報道特別番組 阪神大震災5年 住民のためのまちはつくりられているのか	毎日放送 61分 2000/1/16	ドキュメンタリー・ 録音構成	阪神大震災から5年がたった2000年1月、都市計画によって道路は整備され新しい家が建ち並んだ。果たして、まちは住民が願ったものになったのか。神戸市東灘区の森南町と長田区の野田北部地区、2つの例から人々がどのように傷ついたまちを再生したのか振り返り、検証する。
R02374	ラジオ防災スペシャル 木津川・宇治川・桂川 今、淀川が危ない！	京都放送 60分 2002/6/23	ドキュメンタリー・ 録音構成	国土交通省淀川工事事務所が発表した浸水想定区域図をうけて、集中豪雨の際に淀川流域で予想される被害やその対処について考える。出演は京都大学名誉教授・今本博健氏、国土交通省近畿地方整備局・宮本博司氏、京都新聞論説委員・島津吉弘氏。
R02519	宮城県沖地震から25年 地震再来に備えて今、防災は	東北放送 29分 2003/6/7	ドキュメンタリー・ 録音構成	宮城県沖地震から25年、研究によれば30年以内に宮城県でM7以上の地震が起きる可能性は9割以上とされる。地盤や家屋の耐震性、防災活動への取り組みや災害弱者への支援、ライフラインの確保について取材し、防災対策と防災力向上について考える。地震予知連絡会会長の大竹正和氏を迎え、2003年5月の宮城県北部地震のメカニズムと今後の大規模地震への影響について聞く。
R02782	新潟県中越地震災害特別番組	エフエムラジオ新潟 22分 2004/11/1	報道・時事	2004年10月23日、新潟県中越地方に大地震が発生した。FM新潟では発生直後から割り込み放送を実施。被災現場からの衛星携帯電話を活用した中継などを行った。◆そして地震後一週間経過した中で、日々変化する被災者ニーズに対応した特別番組編成を行い、被災者の生活関連情報を中心に放送していった。◆被災地のニーズ・関心は時間とともに変わっていく。当初は自分および家族の身の安全を確保すること。次は水・食料。電気・ガスなどのライフラインの情報、各地の災害対策本部から送られてくる医療機関の診療案内、共同浴場の案内、住宅相談窓口の開設、学校幼稚園の休園・休校、いかがわしい販売員への注意喚起などの様々な情報である。

放送ライブラリー公開ラジオ番組＜防災・震災関連＞

※8階視聴フロアで視聴できます

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R02654	震災10年ネットワーク1・17スペシャル 未来へ伝えたいこと、くり返したくないこと	毎日放送 137分 2005/1/15	ドキュメンタリー・ 録音構成	阪神淡路大震災を語り継ぎ、災害への備えを呼びかける「ネットワーク1・17」の震災10年特番。80歳の今も元仮設住民のため奔走する仮設住宅の元自治会長・安田秋成さん。避難者ホットラインで悩み相談を受け続けた中西光子さん。震災を契機に看護婦からボランティアに転身し、高齢者・障害者のために被災地を飛び回る黒田裕子さん。被災者と共に歩んできたゲストのトークに防災の専門家・木村拓郎さんを交えて「未来へ伝えたいこと、くり返してはいけないこと」を討論する。
R02717	シリーズ防災 最前線からの報告	茨城放送 40分 2005/1/17	報道・時事	10年前の阪神大震災や2004年の新潟中越地震などから私たちは何を学んだのか。4回連続で茨城県内の防災関係機関や住民の取り組みを伝えながら防災・減災事情を追う。第1回目は、阪神淡路大震災に派遣された茨城県職員や警察官の経験が、県内の防災計画にどう活かされたのかについて。
R02741	HOT ZONE おはようKRY 17日は節目の日 こうべとやまぐちを結んで	山口放送 59分 2005/1/17	トーク・ ワイドショー	阪神淡路大震災から10年間、「震災と防災」を伝えてきた朝ワイド「おはようKRY」では、中谷アナウンサーがリポーターとして神戸入りした。5時46分、地震発生時刻に行われる「1・17希望の灯り」の集いでは竹灯籠や雪地蔵に明りをともした。スタジオでは「震災と防災の放送」に関わってきたゲストが節目の朝の思いを伝える。
R02983	安心ラジオ 第1夜 放送は災害をどう伝えてきたか	NHK 50分 2005/3/19	ドキュメンタリー・ 録音構成	災害時に期待されるラジオの役割を考える。ゲストは作家・柳田邦男氏と防災専門家・廣井脩氏。第1夜は災害報道の歩みを振り返り、ラジオが果たしてきた役割を考える。関東大震災後に始まったラジオ放送は、災害時の情報伝達メディアとして期待されたが、1959年の伊勢湾台風までは家庭に電池式ラジオの普及が低く情報を伝えきれなかった。しかし1961年の第二室戸台風では、報道が初めて安全のための行動を呼びかけ、市民の意識向上もあり高潮の犠牲者を出さなかった。報道の役割は「防災」から「被災者を支える放送」へと広がり、1963年の新潟地震では、電話が不通になる中、被災者の安否情報を放送した。
R02984	安心ラジオ 第2夜 新潟県中越地震 被災者はラジオをどう聞いたか	NHK 80分 2005/3/21	ドキュメンタリー・ 録音構成	第2夜は新潟県中越地震の災害報道について。前半では被災者900人に行った調査から、「ラジオ災害報道の課題」などを詳細に分析する。また後半では、この教訓を今後の災害報道にどう生かすか、必要な情報をどう伝えていくべきかを考える。
R02662	蟹瀬誠一ネクスト！ 復興の歩みを始めた三宅島から生中継	文化放送 116分 2005/4/18	トーク・ ワイドショー	パーソナリティは蟹瀬誠一と小川真由美。この日は三宅島からの中継を交えての生放送。蟹瀬が三宅島からレポートする。噴火による4年半の全島避難を経て、帰島開始から2カ月余り。島民の声、三宅村長の訴え、火山学者のコメントなど、復興を始めた島の姿を多角的に伝える。中継中に、防災無線から火山ガス情報が流れる場面も。

放送ライブラリー公開ラジオ番組＜防災・震災関連＞

※8階視聴フロアで視聴できます

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R02730	元気満タン秋田だ！WIN2 おいしい金曜日	秋田放送 55分 2005/5/27	トーク・ ワイドショー	テーマは「保存食」。今回は日本海中部地震に合わせて毎年企画される＜シリーズ防災＞のおいしい金曜日分をピックアップ。73才のおばあちゃんに田舎の保存食を作ってもらおう。また「女性のための防災」をテーマに、女性からみた困りごとや育児に必要な物を紹介。停電時、冷蔵庫の中身を効率よくおいしく長持ちさせる方法も取り上げる。
R02842	報道特別番組ネットワーク1・17スペシャル 震災10年を超えて	毎日放送 59分 2005/5/30	ドキュメンタリー・ 録音構成	阪神・淡路大震災の記憶を語り継ぎ、次なる災害への備えを呼びかける「ネットワーク1・17」(1995年4月15日放送開始)の特別番組。4組の震災体験者のインタビューから、震災10年の月日を浮き彫りにする。パーソナリティは妹尾和夫と魚住由紀。語り、古川圭子。
R02754	本名正憲のきょうもゴゴイチ ゴゴイチ防災ラジオ	中国放送 60分 2005/5/30	トーク・ ワイドショー	梅雨を前に、広島市東区で1500人が参加する防災訓練が行われた。府中大川が大雨で決壊し避難勧告が出たという設定だ。番組はこの訓練に協力し、ラジオからも避難勧告が出たことを呼びかけ、避難移動訓練をしてみようとおうと試みる。スタジオには広島県危機管理室の高田博文さんを迎え、過去に広島で発生した水害を検証する。
R02722	災害シミュレーションラジオドラマ 天災は忘れずにやってくる	京都放送 59分 2005/11/27	ドラマ	防災意識と水害の恐ろしさを啓蒙する災害シミュレーションドラマ。平成〇年9月某日、大型台風が近畿地方に上陸。京都府では北部を中心に500mmを超える大雨に見舞われ、大雨洪水警報が発令された。桂川は北部の膨大な水量を京都市内に運び、堤防が決壊して市内中心部が浸水した。一方、鴨川も越水が始まり未曾有の危険が迫る。
R02747	SUNDAY MORNING WAVE	エフエム仙台 30分 2006/2/12	トーク・ ワイドショー	心地よい音楽を聴きながら、いつのまにか地震に関する知識や備えが身につくことを狙いとした防災情報番組。東北大学災害制御研究センター長の今村文彦教授が解説する「地震に自信を」、県内在住の外国人のために外国語による防災情報を紹介する「グローバル・トーク」など。宮城県沖地震の再来に備え、知って役立つ地震・防災情報を届ける。この日の今村教授のテーマは「非常食」、ゲストは中国人留学生・王秀芳さん。
R03177	浪曲「吉岡先生」と大阪防災元年	大阪放送 60分 2007/5/29	ドキュメンタリー・ 録音構成	大阪を直撃し、後に防災の原点となった昭和9年の室戸台風の実態を、浪曲「吉岡先生」と体験者の証言で描く。この浪曲は、実在の吉岡藤子先生を題材にした物語。教育に情熱と愛情を持つ吉岡先生は、児童の親が発した「命をかけて児童を守るか」という問いに悩む。ある日、室戸岬に上陸した巨大台風が無警戒の大阪府民を襲う。風速は60メートルまで強まり、煙突は倒れ瓦は紙のように飛んだと言う。1900人以上もの死者には児童が多かった。必死で子供を守ろうとした吉岡先生も校舎の下敷きとなり死亡。しかし先生が身をもってかばった5人の子供は奇跡的に助かった。浪曲：菊地まどか

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R03400	SUNDAY MORNING WAVE[211]	エフエム仙台 30分 2008/4/13	トーク・ ワイドショー	30年以内に99%という高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震に備え、防災意識を高めることを目的に放送している防災啓蒙番組。国の中央防災会議のメンバーで、津波の世界的権威でもある東北大学の今村文彦教授が地震・防災を様々な角度から解説する「地震に自信を」、県内在住の外国人をゲストに、その国の言葉で防災アドバイスを紹介する「グローバル・トーク」などを届ける。今回は台湾からの留学生に、1999年の台湾大地震の経験について聞く。
R03283	防災の町 川西地区は今日も元気です！！	西日本放送 59分 2008/5/25	ドキュメンタリー・ 録音構成	地域ぐるみで災害に備える活動を紹介する。丸亀市川西地区は、一級河川土器川の左岸に位置し、南北6km東西1kmという細長い地形に約7000人が住む。阪神淡路大震災の教訓をもとに、2001年から自主防災会を作り防災に取り組んでいる。最初は人々の関心は高くなかったが、地域イベントと結び付けることで意識が変化してきた。健康ウォーキングは防災フェアと一緒に開催し、祭りのいも炊き会も防災訓練を兼ねている。
R03294	報道特別番組 死者ゼロの水害へ 未来型防災都市を考える	京都放送 60分 2008/5/25	ドキュメンタリー・ 録音構成	1986年7月、総雨量372ミリを記録した京都府南山城地区と、降水量428ミリを記録した2000年9月の東海豪雨。二つの水害は発生状況が似ているが、東海では死者が出、南山城では出なかった。京都大学防災研究所の河田恵昭教授は、心理状態やコミュニティのあり方に違いがあったと分析する。災害弱者への対策も急務だが、個人情報保護法のため対策は遅れている。
R03563	あおもりTODAY 火曜なんだ？かんだ！ 災害時に家族だけでの支援が 困難な人たちの周辺	青森放送 52分 2009/5/26	ドキュメンタリー・ 録音構成	2009年1月1日、八戸市で浄水場への導水管の破損事故が起こり、八戸市ほか8市町村で断水が続き20万人以上の生活に支障をきたした。十和田市の鍼灸マッサージ師の南館邦士(くにお)さんは全盲のラジオパーソナリティ。南館さんは自分の番組で、身体にハンディがある人たちが災害時にどんな状況に置かれるかを検証した。
R20037	SBSラジオギャラリー ここから永遠に 隠された東南海地震からのメッセージ	静岡放送 44分 2009/10/11	ドキュメンタリー・ 録音構成	昭和19年の東南海地震は日本全土に大きな被害を出したが、太平洋戦争中だったためあまり知られていない。発生翌日の12月8日の新聞にも記事はほとんどない。この日は真珠湾攻撃の記念日だったのだ。疎開中に被災した児童は、教師から「地震のことは外部に漏らしてはならない」と厳命された。当時、地震の被害を調べた大庭さんは周囲から「スパイ」と言われた。国民学校4年生の時に被災した元教諭の筒井さんは、「子どもたちに地震の恐ろしさを伝えていくのが私の使命」と講演を続ける。
R20207	阪神・淡路大震災から15年 ラジオが伝えたこと・そして、伝えること	ラジオ関西 59分 2010/1/17	ドキュメンタリー・ 録音構成	阪神・淡路大震災発生から15年、ラジオは何を伝えてきたのか、何を伝えられなかったのか。その跡をたどりながら、これから何を伝えていくのかを、ワイドのパーソナリティ、レポーター、ディレクター、記者など、現場の当事者たちが検証し、今後の災害放送へ、どのように繋げていくのかを語り合う。また、これまでの取材を通じて教えられたことや、今、災害が起こった場合の、ラジオの果たす役割などについて、専門家や現場で被災者と向き合っているNPOの責任者に今一度語ってもらおう。一方、この15年間、ラジオ関西の当時の関係者が、その後も地域のコミュニティーメディアを通じて関わっている災害報道についても紹介しながら、出演者が、それぞれの立場で今後の災害放送に対する心構え、留意点などを紹介する。

放送ライブラリー公開ラジオ番組＜防災・震災関連＞

※8階視聴フロアで視聴できます

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R20436	K-MIX 地震防災特番	静岡エフエム放送 59分 2010/9/1	トーク・ ワイドショー	2009年8月11日早朝に発生した、駿河湾を震源とするM6.5の地震から1年。東海地震への備えは充分だろうか。意識調査の結果を紹介しながら、専門家と共に実践的な情報を伝える。地震発生前に準備できる「備蓄」「グッズ」「保険」、地震発生後の「地震、その瞬間」「体験者は語る」「ライフライン」「役立つスキル」等のテーマで構成する。
R20363	RAB耳の新聞	青森放送 36分 2011/4/3	ドキュメンタリー・ 録音構成	視覚障害者パーソナリティによる情報番組。東日本大震災後、視覚障害者はどんな状況に置かれ、どんな問題があったのかを3週連続で伝えた内の、4月3日、10日放送分を収録。◆4月3日の放送では、十和田市の全盲パーソナリティ南館邦土さんが交流のある八戸市の視覚障害者の消息を、NTTの伝言ダイヤルで確認。電話でほかの視覚障害者の震災体験と避難所での様子を聞く。また八戸市役所の障害者福祉課長らに話を聞き、要援護者支援事業が機能していたか検証する。◆4月10日の放送では、青森市の全盲パーソナリティ小田垣康次さんが交流のある宮城県松島町、塩竈市、岩手県陸前高田市の視覚障害者に震災体験を聞き、教訓を探る。
R20418	特別番組 子供たちに笑顔を！ 被災地にクレヨンと画用紙を届けよう！！	新潟県民エフエム放送 59分 2011/5/29	ドキュメンタリー・ 録音構成	東日本大震災後、新潟県民エフエムは子どもたちにクレヨンと画用紙を届ける活動を行ってきた。ゲストに未来予想図実行委員会(中越沖地震からの心の復興を目的に設立)や、被災地の災害FMのスタッフを迎え、2ヶ月半が過ぎた被災地の状況を伝える。物資が整いはじめ、学校が再開し、仮設住宅への入居がスタートした今、被災地情報の風化が懸念される。それを防ごうと継続的支援を行うボランティア団体や防災カウンセラーに話を聞く。
R20464	ラジオで、つなぐ。震災ドキュメント 故郷のかげ	京都放送 59分 2011/5/29	ドキュメンタリー・ 録音構成	KBS京都ラジオは、東日本大震災から1ヶ月後(4月11～13日)と2ヶ月後(5月14・15日)に宮城県を訪れ、ボランティア拠点や避難所、瓦礫の街、商店街などを歩いて人々から話を聞いた。被災者やボランティアらの肉声で被災地の現状を綴る。
R20725	防災ラジオ 私達にできる事	アール・エフ・ラジオ日本 27分 2012/3/9	トーク・ ワイドショー	10分間の防災番組の3回分。3月9日は、東日本大震災から1年を迎える宮城県名取市と石巻市から、仮設住宅の声や復興状況を伝える。4月13日、20日放送では、教訓を首都圏にどう生かすか、早稲田大学の柴山知也教授に聞く。新たに発表された津波被害予測図には、横浜駅周辺や横浜スタジアムなど従来よりも大幅に拡大した浸水予想地域が示されている。海岸では避難タワーの建設や海水浴客への備えも必要だ。柴山さんは、皆が災害リスクに敏感になり、自宅や職場等で地震に遭うと何が起るのか、どう避難するか常に考えることが重要だと訴える。
R20663	STVラジオ震災特番 3.11 命を守る！	STVラジオ 60分 2012/3/11	トーク・ ワイドショー	東日本大震災から1年。命を守るために必要な知識、備え、情報を届ける。北海道大学の平川教授には津波堆積物の研究から予想される北海道の地震・津波について、奥尻町役場の長崎氏には北海道南西沖地震からの教訓について、環境防災総合政策研究機構の松尾氏には今回の津波で救護者が犠牲になった実態、被害拡大の原因、助かった人たちの行動、減災のための提言について聞く。

放送ライブラリー公開ラジオ番組＜防災・震災関連＞

※8階視聴フロアで視聴できます

番組ID	タイトル	放送局	ジャンル	内容
R20630	3.12震度6強から1年 栄村復興と地震対策	信越放送 29分 2012/3/11	ドキュメンタリー・ 録音構成	東日本大震災の翌日、2011年3月12日未明の午前3時59分、長野県北部地震が発生した。人口2000人余の豪雪の村、栄村を震度6強の揺れが襲い、202棟が全半壊したが、地震による直接的な死者は一人もいなかった(災害関連死は3人)。死者ゼロの「栄村の奇跡」の背景に何があったのか、震災当日の村民の行動から教訓を探る。
R20801	つながる3・11	ラジオ関西 58分 2012/3/11	ドキュメンタリー・ 録音構成	いつ起きてもおかしくない南海・東南海地震だが関西での危機感は低い。三陸海岸は過去に何度も津波を受け、防災意識も高かったが大きな被害が出た。津波の時どのような状況だったか、どうして助かったかを聞き、いざという時にとるべき行動を考える。過去、南海地震や安政地震で大きな被害があったこと、淡路島で10m超の津波が来たことも分かった。京都大学防災研究所の川田さんは、災害は二度と同じ形では起こらないと警鐘を鳴らす。